2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012年2月26日作成)

小委員会名	地域文脈形成・計	画史小委員会	主 査 名:木多 道宏 就任年月:2009年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会		委員長名:小林 英嗣 主 査 名:
設置期間	2009年4月 ~ 2013年3月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	 ・都市計画、建築計画、農村計画、建築・都市史の分野から先鋭的な研究を進めている研究者を委員に選定し、あるいは研究会に招き、「地域文脈」についての新たな研究体系の構築を行う。 ・都市や集落の歴史的事実を「再編集」する作業を通して、そこに継承されている空間性、社会性、計画の精神性、暮らし、記憶などの価値を読み解く。 ・積み上げられてきた価値の文脈を現代なりの方法で継承し、「進化」させていくためのデザイン論を展開する。 ・初年度は、「連続研究会」における議論と記録を基に、国内外における地域文脈の形成・継承の事例収集とそのしくみの解明、ならびにプランナーが果たした役割、生活文化の影響等に関する考察を行った。 ・2年度は、引き続き「連続研究会」を開催し、国内外における地域文脈の形成・継承、プランナーが果たした役割に関する考察を継続し、4年度の出版に向けて、都市の時代移行を捉える視点を整理した。 ・3年度は、東日本大震災に対する当小委員会からの貢献について議論を重ねた結果、「『地域文脈』の継承に向けたガイドラインの提言」を執筆し、復興計画の検討・策定にかかわる人々に届けることとした。このため、集落や震災復興について、特に空間組織やコミュニティの観点から研究実績のある研究者をWGのメンバーとして迎えた。「連続研究会」も並行して継続する。 ・4年度は、震災対応のために遅れた連続研究会を完遂し、出版に向けた作業を行う。当初の予定を一部見直し、震災からの復旧・復興において継承すべき「地域文脈」に関する記述を充実させる。 		
委員構成 (委員名(所属))	支員公募の有無:有 主査:木多道宏(大阪大学)		
設置 WG (WG 名:目的)	・計画理念研究 WG(日本ならびに諸外国を対象に、文脈を読み込んだ地域のマネジメントの理念・思想的根拠を整理) ・地域形成史研究 WG(地域文脈の解明・事例収集と、「近代化」・「時代移行」の概念の考察) ・地域マネジメント研究 WG(日本ならびに諸外国の都市・地域を対象に、文脈を読み込んだ地域のマネジメントの方法を検証)		
2011 年度予算	310,000 円	ホームページ公開の有無:有 委員会 HP アドレス:http://are	a-context.com/

項目	自己評価
委員会開催数	4 回
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催 し物 (シンポジウム・セミナ ー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	・東日本大震災からの復旧・復興に対する提言を執筆し、冊子を印刷するとともに、HPに公開した。3/1 大震災シンポジウムにて約300部を配布する予定である。冊子の名称は、「東日本大震災と都市・集落の地域文脈 その解読と継承に向けた提言」とした。 ・3/1 大震災シンポジウムにて、当小委員会から発表した。 ・最終年度の出版に向けて準備を再開した。
委員会活動の問題点 ・課題	1.極めて多忙な委員が多いため、会合の日程調整が難しい。 2.提言冊子の印刷のため、委員会予算を温存していたが、交通費にしか使用できず、見当を誤った。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。